

2018年9月12日

住友理工、国際鉄道技術専門見本市「Inno Trans 2018」に出展

～世界最大の鉄道見本市への出展を通じて、海外展開を加速～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長：松井徹）は、ドイツのメッセ・ベルリン/ベルリン国際見本市会場で9月18日(火)から開催される「Inno Trans 2018」に、鉄道車両用の空気ばねなどを手掛ける住友電気工業株式会社（大阪府中央区）と共同で出展します。尚、当社グループからは、欧州で鉄道車両用部品の製造・販売を担う子会社 SumiRiko Industry France S.A.S. (フランス)が参加します。



ブースイメージ図

「Inno Trans」は、隔年で開催される世界最大の鉄道見本市で、世界約60ヶ国からおよそ3,000社の企業や団体が出展します。前回は14万人以上が来場し過去最高の来場者数を記録しました。

当社グループは、鉄道用品事業において世界4極生産体制の構築を進めており、すでに生産を行っている日本、中国、欧州に加え、2019年初頭には米国でも本格生産を開始する予定です。当社の鉄道車両用防振ゴムは、1964年の東海道新幹線開業当初から全ての新幹線に採用され、日本国内ではトップシェア（当社推定）を誇ります。日本市場で評価されてきたこの製品を世界同一品質で生産できることが当社グループの強みです。

今回は、顧客からの部品調達の現地化要求に応えることのできる当社のグローバルネットワークを車両メーカーや鉄道部品メーカーに紹介。さらに共同出展する各社が取り扱う製品を展示することで、既存顧客への多彩なラインアップの紹介と新規顧客獲得を目指し、グローバルシェアの拡大を図ります。

<開催概要>

展示会名	国際鉄道技術専門見本市 Inno Trans 2018
会期	9月18日(火)～21日(金)
会場	メッセ・ベルリン/ベルリン国際見本市会場
ブースエリア	Hall9 / Booth 608

<展示品紹介>

ブースでは、欧州車両メーカーからニーズがある液封タイプの防振ゴムの参考出品をはじめ、鉄道車両用防振ゴムのラインアップを展示します。

>> 鉄道車両用防振ゴム

鉄道車両用防振ゴムは、鉄道の車両を支える台車部分に取り付けられ、軌道からの振動を大幅に低減します。当社の高分子材料技術により生み出された特殊なゴム材料と設計技術により、難燃性・耐候性に優れているのが特長です。日本で現在運行されている新幹線をはじめ国内外の様々な鉄道車両に採用され、走行時の安全性と、車室内の快適性向上に貢献しています。



鉄道車両用防振ゴム



参考出品する
液封タイプの防振ゴム(右)

以上

―― 住友理工について ―――

住友理工は1929年に創業し、名古屋市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車(モビリティ)分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の製造音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、インフラ・住環境、エレクトロニクス、ヘルスケアの各分野でも事業を展開しています。23ヶ国106拠点に広がるグローバルネットワークを活用して、世界中の人々の安全・快適・環境に貢献する“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報IR部 / 〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋

tel 052-571-0259 e-mail kouhou@jp.sumitomoriko.com <http://www.sumitomoriko.co.jp/>